

ご寄付のお申込み方法

千葉大みらい医療基金の指定する払込取扱票に必要事項（お名前 / ご住所 / お電話番号又はメールアドレス / 支援先に「消化器内科学」）をご記入し、お近くの金融機関でお振込み手続きをお願いいたします。（追加の払込取扱票をご希望の方はお気軽にお問い合わせください。）

クレジットカードのお申込みでは一定額を継続的に寄付出来る仕組みもございます。

※QRコードを読み取り後、「その他特定の研究分野への支援」に「消化器内科学」とご記入下さい。

クレジットカードの
お申し込みはこちらから→



消化器内科学HP
はこちらから→



顕彰制度

感謝の気持ちを込めて、寄付金額に応じて新医学部棟（治療学研究棟）4F ラウンジにて、ご芳名を刻印した銘板の掲示や記念品の贈呈をさせていただきます。また、ご寄付いただいた方には謝恩会へご招待するなど、各種、基金室よりご案内いたします。

謝意	個人	法人
クリスタル表彰プレート	100万円～	500万円～
銘板（大）の掲示	100万円～	500万円～
銘板（中）の掲示	50万円～	200万円～
銘板（小）の掲示	10万円～	50万円～
オリジナルペーパーウェイト	3万円～	10万円～
お名前をHPへ掲載	希望者全員	希望者全員



新医学部棟 4F ラウンジに設置する寄付者顕彰銘板

皆様のお名前を刻み、永久に保存します。



ペーパーウェイト

千葉医学のロゴがデスクを飾ります。



クリスタル表彰プレート

皆様のお名前を刻印し、私たちがお贈りいたします。

税法上の優遇措置

・個人のご寄付

寄付金控除制度を利用して、寄付金額から 2,000 円を差し引いた額で、所得控除を受ける事ができます（控除の対象となる寄付金額は総所得金額の 40%が上限）。詳細は本基金ホームページをご確認ください。

・法人のご寄付

法人様のご寄付はその金額を損金に算入可能です。損金算入の方法として、「特定公益増進法人に対する寄付金」があります。この制度を利用することで寄付金の損金算入限度額にかかわらず、全額損金算入することができます。

※寄付金額収書はおおよそ 1 ヶ月以内にお送り致します。

※12月中のお申込みの場合は翌年の領収日になってしまう可能性がありますので年内の領収日をご希望の場合は一度ご相談下さい。

ご不明な点がございましたら、基金室までお気軽にお問い合わせください。



千葉大みらい医療基金
～国民の安心・安全な未来を目指して～
千葉大学大学院医学研究院・医学部

☎ 043-226-2286

260-8670 千葉県千葉市中央区亥鼻 1-8-1

<https://www.mirai-fund.chiba-u.jp> 千葉大みらい医療基金



地域医療機関と大学病院を繋ぐ新たな挑戦！

医師間オンラインコンサルテーションシステム

ご支援のお願い

Doctor to Doctor

地域医療機関と大学病院を繋ぐ新たな挑戦！—— 医師間オンラインコンサルテーションシステム

ご支援のお願い

医療の進歩は絶えず、日々新しい治療法や技術が生まれています。しかしながら、高度専門医療機関は都市部に集中し、特に都市部から離れた地域においては、最新の医療へのアクセスが課題となっております。加えて、高齢化や核家族化の進行に伴い、特に高齢や体の不自由な方々が、都市部の専門医療機関にアクセスすることは一層困難になっています。

私たちは、これらの課題を解決すべく、地域医療機関と大学病院を繋ぐオンラインコンサルテーションシステムの開発・運営に尽力しています。このシステムを通じて、地域医療機関の医師は大学病院の専門家の意見やアドバイスをリアルタイムで受け取ることができます。特筆すべきは、地域の医療機関で診断・治療に難渋する症例を持つ先生や患者さんは、このシステムを無料で使用することができる点です。その結果、患者さんは自身の住む地域近くで、最先端の医療サービスを受けられるようになります。

しかし、このシステムを維持し、最先端の医療を地域へ届け続けるためには、継続的な資金が不可欠です。実は、このシステムの開発・運営は、皆様からの寄付が主要な支えとなっています。さらに、大学病院の専門医は、地域の医療支援のため対価をせずにコンサルテーションを実施しています。皆様の寄付は、システムの運営や新機能の開発に活用されます。

お力添えを、心よりお願い申し上げます。

千葉大学大学院医学研究院講師 小笠原 定久

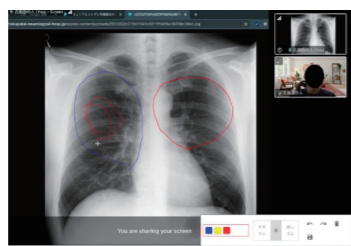
Overview

システムの概要

医師間オンラインコンサルテーションシステム

Doctor to Doctor

「自施設のみで診療を完結することが困難な症例」に関して、地域医療機関と高度先進医療機関との間で医師同士で即時的にオンラインでコンサルテーションを行い、治療方針の決定へと導くシステムです。オンライン上で検査データやMRI画像などを共有でき、これまで問題であった紹介状作成、予約、受診、結果までに長期間有する無駄を省くことができます。



医師同士が顔を合わせて相談できる



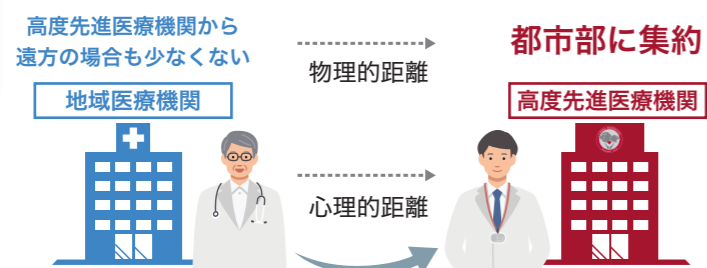
同じ画像を見ながらディスカッションも可能

Background

実装背景

シームレス対応により患者さんへ最先端の医療サービスを

■ 地域医療機関と高度先進医療機関の物理的・心理的距離



相談したい症例は多々あるが、二の足を踏む場合も少なくない。

- 地域医療機関医師** 大学病院の先生方に診療いただく症例ではないかもしれない…。
- 地域医療機関医師** 患者さんに大学病院へ受診いただくことはご負担になるのではないかと？
- 患者さん** 遠方の病院や別の病院を受診することが億劫だ。

適切なタイミングで高度先進医療機関の受診ができず最適な治療の機会を逸する。

地域医療機関と高度先進医療機関との間で取り交わす「診療情報提供書」だけでは、真の意図が伝わりづらい。

現状の課題とその解消への仮説

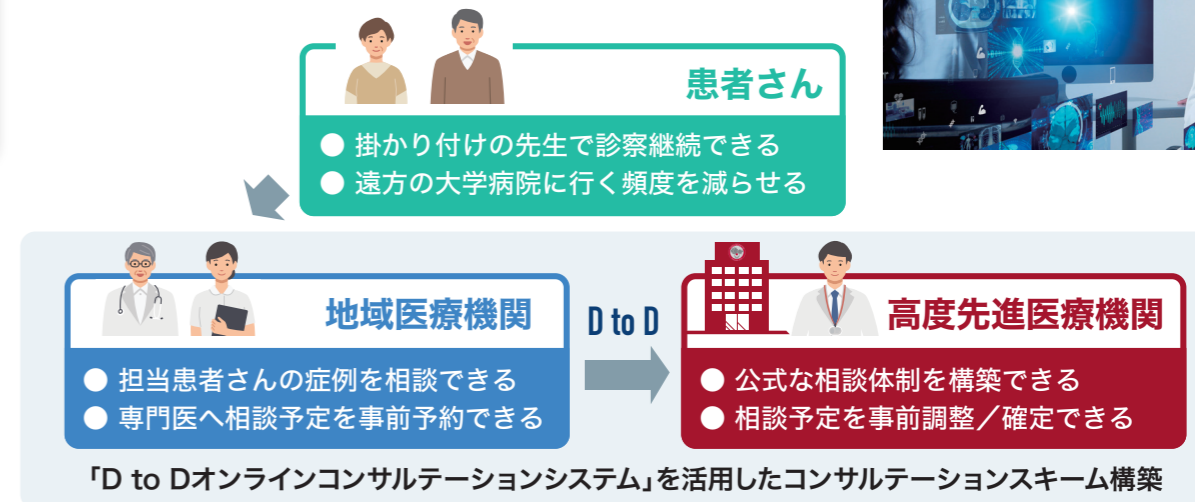
【課題】
迫り来る将来に向けて「地域医療現場が直面する課題」の解消が必要

- 急速な高齢化と介護家族の欠乏
- 医学の日進月歩と専門医の偏在
- 地域医療機関と高度先進医療機関との物理的・心理的距離
- COVID-19の流行による通院控え 等

【仮説】
日常臨床においてしばしば遭遇する「診療に難渋する症例」を地域医療機関の医師が高度先進医療機関の医師からコンサルテーションを受けられるシステム/スキームを構築/提供できれば、課題解消に寄与するのではないかと？

Vision

私たちが目指す医療の未来ビジョン



本スキーム実現で恩恵を享受できる方 = 高度先進医療機関/地域医療機関の医師、患者さん

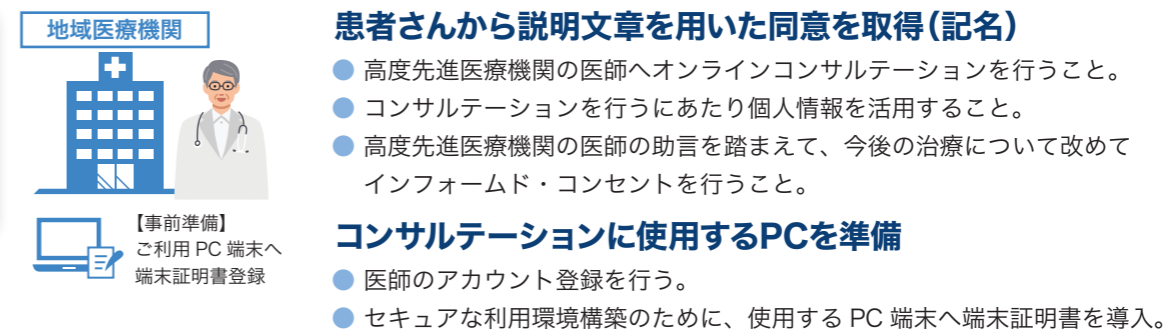
高度先進医療機関の医師 公式な症例相談を受け付けることで域内の診療方針を誘導できる。

地域医療機関の医師 相談結果を下に担当患者さんの診療方針を決定/継続できる。

患者さん 遠方の専門医に通わずともかかりつけ病院で診療を受け続けられる。

Flow

導入フロー



患者さんから同意を得た上で行うオンラインコンサルテーション

かかりつけ医療機関では実施可能な検査も限られる中、実に多くの患者さんがいらっしやるので治療方針の決定に困ることも少なくありません。我々が開発したオンラインコンサルテーションシステムでは、高度医療機関の専門医が即時的にかかりつけ医に対しコンサルテーションを行うことが可能となりました。オンライン上で検査データやMRI画像を共有可能で、遠隔地域であろうと全てのかかりつけ医と患者さんに紹介状作成などの手間を省きスピーディーに適切な治療方針を提案することができます。ご寄付を活用し、多くの先生方、患者さんのお役に立てるよう、多くの医療機関での実装を進めて参ります。

ご支援の程、何卒宜しくお願い申し上げます。